

派遣事業報告会

九月十日 追分公民館

参加者の
発表内容
(要点のみ)
①参加への動機
②印象に残ったこと
③みんなに伝えたいこと



追分小6年 分田佳奈美さん
追ち千

①原爆が落とされた頃のことについて興味があった。
②当たり前と思っている平和がとても幸せなことと感じた。
③原爆ドームが昔起きた悲しい出来事を現在まで残しているように私もみんなに伝えていきたい。



早来小6年 来乃幸乃さん
坂本

①日本が戦争していた時と比べて今はどんなに平和かを学ぶため。また「景色」をテーマとして参加。
②無差別に失われた命の大切さや、昔の悲しみを乗り越え頑張っている人々を見てきた。
③戦争のことを伝えることやみんなが笑顔になれる平和への活動もしていきたい。



追分小6年 分南生さん
追なか中

①学校で毎年広島に届ける千羽鶴を折っていて戦争や原爆について興味があった。
②今当たり前になっている平和がとても大切なことと感じた。
③原爆の恐ろしさは生き残っても後遺症があるということ伝えていきたい。



遠浅小6年 遠航大さん
かながわ 金川
※体調不良のため報告会は欠席でした。

①はだしのゲンを読んで広島に興味を持ち、原爆の恐ろしさや当時の苦しみや悲しみを知らなかった。
②原爆の恐ろしさや被爆者の苦しみ、そして原爆によって焼きつくされた地をあれほどの町まで作り直した人々の努力を感じた。
③生きるもの全てで平和で暮らせる戦争の無い世界にしたい。



早来中1年 来あかりさん
しまあ

①65年前に戦争があったことや原爆の恐ろしさ、悲惨さを学びたくて。
②原爆で多くの命が奪われました。そして悲しい記憶は今も残り続けている。
核兵器が無くなり、平和の灯の炎が希望の光に早く変わって欲しいと思った。
③戦争があったことをこれから産まれてくる子どもたちに伝えていきたい。
そして戦争が終わって本当に良かったと思ってほしい。



追分中3年 分夢帆さん
おいかわ 及川

①学校の授業や小学校の頃聞いた広島派遣事業の報告会の内容を自分の目と耳で確認したかった。
②平原さんや塩治さんから聞いた話はとても悲しく辛い事実ばかりであった。
③当たり前の生活を一瞬で奪った原爆。このような悲劇が二度と起こらないように一人でも多くの人に「昔広島で起きた事実」を知ってもらいたい。



引率者 橋本耕太さん
はしもと 橋本

最初に全員で顔合わせをしたとき、みんな初対面だったので硬い様子でしたが、事前研修や広島での学習が進むに連れて、徐々にみんなが一つにまとまり、とても仲の良い派遣団だったと思います。
引率した私自身も、戦争や平和について深く考えさせられる貴重な機会となりましたが、何よりも、子どもたちといろいろな面で関わることができて大変貴重な経験をさせていただいたと思っています。
子どもたちには、今回の体験を基に戦争を知らない子どもたちに戦争の悲惨さや平和の尊さについて伝え広めていってほしいと思います。

事前研修から報告会まで約1か月半、みんな本当によく頑張りました。



安平町平和教育マスターの氏家さんは、追分小学校の平和学習授業などで戦争のことを伝え続けています。

引率者の橋本さんに「暑い子どもたちを連れて行ってきてあげるとつ」と話しを始めた氏家さん。
「子どもと言ったけれど中学生は立派な大人で、あの頃は志願して戦争に行っているくらいの年齢なんですよ」と当時のことを語りながら今回の事業について感想をいただきました。
「今は平和といっているけれど本当にそれで良いのか？」武器を持ちながら平和を説く国のことを考えてほしい」と参加者に問いかけ、「学んだことを心からはなさないで今回体験したことを世の中のために役立てて欲しい」と報告会のしめの言葉としていただきました。

広報では発表内容の一部を紹介しましたが、多くのことを学んだ児童・生徒から、報告会に集まった50人以上の町民はしっかりと成果を感じることができたと思います。